

■事業のあらまし

国営最上川中流農業水利事業は、朝日町四ノ沢からトンネルで最上川の水を取り、山形市と山辺町・上山市と天童市の一部を加えた3市1町にまたがる農地で不足する水を補っている。

計画では山形盆地の東側の馬見ヶ崎川からは1秒間に2t、西側の畑谷大沼、荒沼、玉虫沼などの西部湖沼群から2.5tまでとれるようになっていて、それで足りない分を最上川から最大8t（現在は最大4t）取水出来る。馬見ヶ崎川からは、現在1tしかとれない状況なので、ほぼ半分は最上川の水に頼っていることになる。主に須川より西側の西部地域の1,500haの農地に使われている。国と県から委託され、私たち土地改良区が管理運営を行っている。



八天橋より頭首工を見る



西部幹線トンネル出口

■尊い命が犠牲になった大工事

西部幹線トンネルは、山辺町の根際まで9.1kmの長さがある。その間の高低差が3.6mしかない。2,500分の1のゆるやかな勾配を2時間以上かけてゆっくり流れてくる。工事費65億円をかけ、昭和48年の着工から10年後の昭和58年に完成。山形盆地の水田を潤し、江戸時代からの悲願が成し遂げられた。

しかし、昭和51年と53年に、2度のメタンガス爆発で18人の尊い命が奪われた。掘削作業が1パーティ9人で、朝日町側と山辺側でそれぞれ9人ずつ犠牲になった。出

口の山辺町に慰霊塔が建てられ、年に1度遺族の方も参加して慰霊塔の参拝を行っている。トンネルに入る時は、四ノ沢の入口の大きな扇風機で空気を動かし、必ずガス探知器を携帯している。

■遠隔操作で用水管理



ここは中央管理局といって、頭首工の様子や、揚水機（ポンプ）の運転状態を把握し、遠隔操作できるようになっている。大きなモニターには四ノ沢頭首工（取水口）の現在の流れる様子も映し出されている。除塵作業は朝日町の鈴木さんに毎日行ってもらっているが、特に多い日は再度連絡をし、除塵機を使って取り除いてもらっている。また、取水量の調整などがここでできるようになっていて、雨で増水した時は、たくさん流れ込まないようにゲートを下げ、水かさが減るとゲートを上げて、取水量を調整している。

西部地域の水の流し方は、自然流下と、高い所までポンプアップして流し直す方法をとっている。8割が管路（パイプライン）になっている。ポンプが故障すると、黄色に表示され、ブザーもなる。管路の中が空にならないように3つのポンプはいつも稼働出来る状態で、万一空になると、充水に1週間はおかかってしまう。管が壊れるのでいきなり圧力をかけられない。壊れるとお金もかかるし、補修に時間がかかる。水が出ないとお金を出してくれている組合員の皆さんに申し訳ない。なので、取水しつづけるため、ポンプの管理をし続けなければならない。そのような管理を夜中も泊まってここで行っている。

お話：最上川中流土地改良区管理課長 仁藤輝夫氏
(2008.7.11 於／最上川中流農業水利見学会)